CASBEE®北九州　評価結果

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル　■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称) PDハウス陣原　新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点		取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.9	/5		がんばろう
2 地球温暖化対策の推進	3.3	/5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.3	/5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0	/5		ふつう

※ 対応するCASBEEのスコア（平均）を5点満点で表示します。（スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点）

評価　凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル：CASBEE-建築（新築）　2016年版　使用CASBEE評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)

1 循環型社会への貢献　スコア平均　2.9

リサイクルに関する配慮

LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア	3.1

長寿命化に関する配慮

Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア	3
Q2/ 3 対応性・更新性	スコア	2.7

＜自由記述＞

＜自由記述＞

2 地球温暖化対策の推進　スコア平均　3.3

省エネ・省資源に関する配慮

LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア	3.6

節水に関する配慮

LR2/ 1.1 節水	スコア	3

＜自由記述＞

＜自由記述＞

3 豊かな自然環境の確保　スコア平均　2.3

生態系保全に関する配慮

Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア	1

緑化に関する配慮

Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3
LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3

＜自由記述＞

3

4 高齢社会への対応　スコア平均　3.0

バリアフリーに関する配慮

Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア	3

＜自由記述＞

主な指標

建物の外皮性能（BPI評価）		
非住宅：BPI値、住宅：省エネ等級	0.61	
建物の一次エネルギー消費量（BEI評価）		
非住宅：BEIm値、住宅：　－	0.81	
外構緑化指数	7.08	%
建物緑化指数	0	%

：入力欄　：CASBEE－建築（新築）の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　(使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要

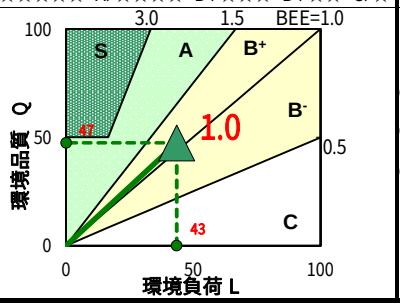
建物名称	(仮称) PDハウス陣原　新築工事	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市八幡西区陣原2丁	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年 (想定値)
建物用途	病院,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月　予定	評価の実施日	2023年7月5日
敷地面積	2,764 ㎡	作成者	松山　裕生
建築面積	890 ㎡	確認日	2023年7月5日
延床面積	2,600 ㎡	確認者	原田　玲二

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE =1.0 ★★★☆☆

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★

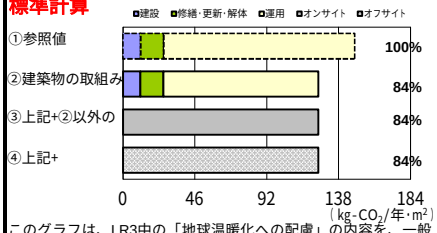


2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

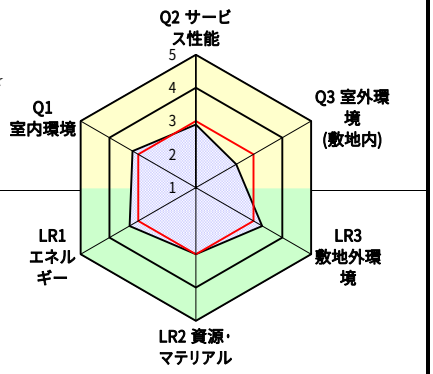
30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

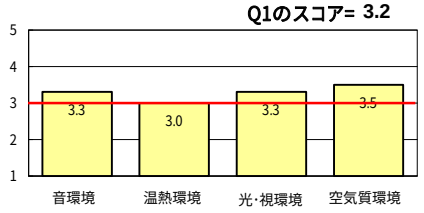
2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)



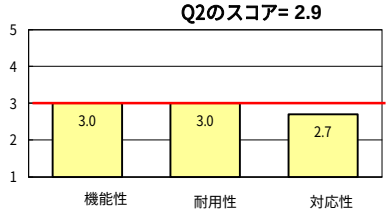
2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.8

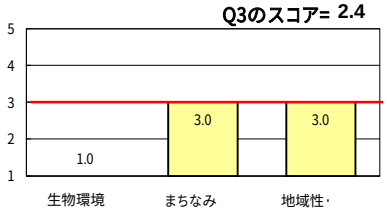
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.2



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.9

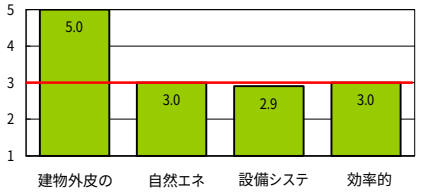


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.4

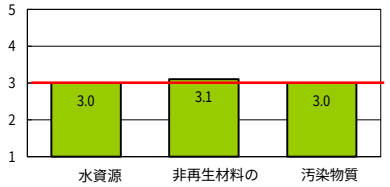


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.2

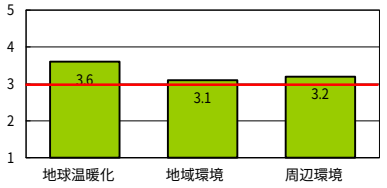
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.3



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.0



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.3



3 設計上の配慮事項

総合

高齢者の利用となる為、介護しやすく明快な動線となるよう配慮した。
特に、トイレを点在させることで各居室から近い位置に設けるなど、利用者に暮らしやすいよう計画した。

その他

0

Q1 室内環境

内装材に化学汚染物質を使用せず、室内環境の向上を図った。

Q2 サービス性能

福岡市まちづくり条例に準拠し、バリアフリーな建物とした。
維持管理に配慮した設計として、防汚性の高い塗装や効果的な水切等による外壁汚れの防止、また外部に露出す

Q3 室外環境（敷地内）

道路に面した敷地内に植栽を適宜配置し、まちなみや景観に配置した。
また、境界部には連続した塀等を作らずに見通しの良いフェンスを設け、ピロティ部は開放性を高めることで防

LR1 エネルギー

効果的な負荷抑制と省エネルギー機器の採用によるエネルギー消費の抑制を行っている。

LR2 資源・マテリアル

部材の再利用可能な取り組みを行った。
節水型器具を選定することにより、節水を図った。

LR3 敷地外環境

ピロティを設け、ピロティ下での利用者の車の乗り降りがし易いように計画した。また外観色彩の統一を図った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称) PDハウス陣原　新築工事

■使用評価マニュア CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**2.8**
Q1 室内環境			0.39		-	**3.2**
1 音環境		**3.3**	0.15	**3.2**	1.00	**3.3**
1.1 室内騒音レベル	ー	**3.0**	0.40	**3.0**	0.40	
1.2 遮音		**3.8**	0.40	**3.6**	0.40	
1 開口部遮音性能	T-2以上	5.0	0.42	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	ー	3.0	0.58	3.0	0.30	
3 界床遮音性能 (軽量衝撃源)	ー	3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能 (重量衝撃源)	ー	3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音	ー	**3.0**	0.20	**3.0**	0.20	
2 温熱環境		**3.0**	0.35	**3.0**	1.00	**3.0**
2.1 室温制御		**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
1 室温	ー	3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能	ー	3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性	ー	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	ー	**3.0**	0.20	**3.0**	0.20	
2.3 空調方式	ー	3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		**3.3**	0.25	**3.3**	1.00	**3.3**
3.1 昼光利用		**4.2**	0.30	**4.2**	0.30	
1 昼光率	昼光率＝リハビリスタジオ3.7%・居室1.8%	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口	ー	-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	ー	3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		**3.0**	0.30	**3.0**	0.30	
1 昼光制御	ー	3.0	1.00	**3.0**	1.00	
3.3 照度	ー	**3.0**	0.15	**3.0**	0.15	
3.4 照明制御	ー	**3.0**	0.25	**3.0**	0.25	
4 空気質環境		**3.5**	0.25	**3.7**	1.00	**3.5**
4.1 発生源対策		**4.0**	0.50	**4.0**	0.63	
1 化学汚染物質	告示対象外又は、F☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		**3.0**	0.30	**3.3**	0.38	
1 換気量	ー	3.0	0.48	3.0	0.33	
2 自然換気性能	居室開口率＝8.48	3.0	0.03	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	ー	3.0	0.48	3.0	0.33	
4.3 運用管理		**3.0**	0.20	-	-	
1 CO_2の監視	ー	3.0	0.05	-	-	
2 喫煙の制御	ー	3.0	0.95	-	-	
Q2 サービス性能		ー	0.30	-	-	**2.9**
1 機能性		**3.0**	0.40	**3.0**	1.00	**3.0**
1.1 機能性・使いやすさ		**3.0**	0.40	**3.0**	0.60	
1 広さ・収納性	ー	3.0	0.03	3.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応	ー	3.0	0.03	3.0	-	
3 バリアフリー計画	ー	3.0	0.93	-	-	
1.2 心理性・快適性		**3.0**	0.30	**3.0**	0.40	
1 広さ感・景観	ー	3.0	0.03	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	ー	3.0	0.03	-	-	
3 内装計画	ー	3.0	0.93	3.0	0.50	
1.3 維持管理		**3.0**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	ー	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	ー	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		**3.0**	0.30	-	-	**3.0**
2.1 耐震・免震・制震・制振		**3.0**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	ー	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	ー	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.0**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	ー	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	ー	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ー	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ー	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	ー	3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		**3.0**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	ー	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	ー	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	ー	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	ー	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	ー	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		2.6	0.30	2.9	1.00	2.7
3.1	空間のゆとり		2.8	0.30	2.8	0.50	
1	階高のゆとり	－	2.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率＝共用部0.21，居室部0.19	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2	荷重のゆとり	－	2.0	0.30	3.0	0.50	
3.3	設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	－	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	－	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	－	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	－	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	－	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	－	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境 (敷地内)		－	0.31	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出	－	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	－	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	－	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	－	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性			-		-	3.2
LR1	エネルギー		－	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPIm＝0.61	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	－	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	－	2.9	0.50	-	-	2.9
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	－	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	－	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	－	3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制	－	3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		－	0.30	-	-	3.0
1	水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1	節水	－	3.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	－	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	－	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.1	0.60	-	-	3.1
2.1	材料使用量の削減	－	2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	－	3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	－	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	－	3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	－	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS下地+外壁側発泡ウレタンt=25使用	4.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	－	3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	－	-	-	-	-	
2	発泡剤 (断熱材等)	－	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	－	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		－	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2換算スコア＝3.6	3.6	0.33	-	-	3.6
2	地域環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
2.1	大気汚染防止	－	3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	－	3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	－	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	－	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	交通負荷制御の取り組み＝4ポイント	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	－	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音	－	3.0	1.00	-	-	
2	振動	－	-	-	-	-	
3	悪臭	－	-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	－	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	－	3.0	-	-		
3	日照阻害の抑制	－	3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」の過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光 (グレア) への対策	－	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版　　(仮称) PDハウス陣原　新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2　サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	○	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	1.0	○	-	-	-	-	○	-						
2.4.3 電気設備	2.0	2.0	-	-	○	-	○	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	○	-	○	-	-							
Q3　室外環境 (敷地内)															
1　生物資源の保全と創出	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
2　まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	-	-	-	1.0	-							
3.1　地域性への配慮、快適性の向上	2.0		1.0	-	-	-	-	1.0	-	-					
3.2　敷地内温熱環境の向上	8.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2　自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無				-											
2.1　材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3　躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6　部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-									
3.1　有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2　温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	-	2.0	3.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1　室内環境

2.1.3 外皮性能
- 窓システムSC 0.5　窓の日射熱取得率（η） -
- U値 (W/m2K)　窓システム 4.0　屋根 2.0　外壁 2.0　床 2.0
- 住戸部分　窓システムU値 -　外皮UA値 -　ηAC -　ηAH -

3.1.1 昼光率
- 昼光率 1.8%

4.2.2 自然換気性能
- 自然換気有効開口面積率 8.5%

Q2　サービス性能

1.1.1 広さ・収納性
- 執務スペース 6.0㎡ /人　病床 8.0㎡ /床　シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応
- コンセント容量 30.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観
- 天井高 2.5 m

1.2.2 リフレッシュスペース
- リフレッシュスペース 0.5%　レストスペース 2.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数
- 想定耐用年数 30 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
- 想定必要間隔 20 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
- 想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔
- 想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり
- 階高 3.4 m

3.1.2 空間の形状・自由さ
- 壁長さ比率 0.0%

3.2　荷重のゆとり
- 床荷重 4000 N/m2

Q3　室外環境 (敷地内)

1　生物資源の保全と創出
- 外構緑化指数 7%　建物緑化指数 0%

3.2　敷地内温熱環境の向上
- 空地率 68%　水平投影面積率 10%　地表面対策面積率 7%　舗装面積率 72%

LR1　エネルギー

1　建物外皮の熱負荷抑制
- BPI/BPIm 0.61　断熱等性能等級 等級2 相当

2　自然エネルギー利用
- 自然ｴﾈﾙｷﾞｰ直接利用量 0 MJ/年㎡　採光を満たす教室数 80.0%　採光を満たす住戸数 80.0%
- 通風を満たす教室数 80.0%　通風を満たす住戸数 80.0%

3　設備システムの高効率化
- BPI/BPIm 非住宅 0.81　住宅 -　太陽光 .0kW　太陽熱等 .0kW　蓄電池 .0kW

LR2　資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無
- 雨水利用率 0.0%

2.4　躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
- 特定調達品目 -　エコマーク商品 -　自治体指定の特定品目等 -

2.5　持続可能な森林から産出された木材
- 使用比率 5.0%

3.2.1 消火剤
- オゾン層破壊係数 (ODP)　地球温暖化係数 (GWP)

3.2.2 発泡剤 (断熱材等)
- オゾン層破壊係数 (ODP) 0　地球温暖化係数 (GWP) 1430

3.2.3 冷媒
- オゾン層破壊係数 (ODP) 0　地球温暖化係数 (GWP) 8

LR3　敷地外環境

2.2　温熱環境悪化の改善
- 見付面積比 44%　隣棟間隔指標Rw 0.40
- 地表面対策面積率 15.0%　屋根面対策面積率 10.0%　外壁面対策面積率 0.0%
- 見付面積Sb 40,000㎡　卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 200 m　基準高さHb 450 m
- 緑地 133㎡　水面 ㎡　保水性対策面 ㎡　高反射対策面 200㎡　再帰性反射対策面 300㎡